

アート・建築・音楽・詩・演劇・食…多彩な表現が交差する、歩いて巡れる“都市の芸術祭”

9月19日（土）から12月20日（日）開催

第一回 前橋国際芸術祭 2026 全アーティスト・プログラム発表

全参加アーティスト・プログラム・連携施策など芸術祭の全容が初公開！

5月26日（火）正午よりチケット販売開始



前橋国際芸術祭2026実行委員会（実行委員長：田中仁）は、2026年9月19日〔土〕から12月20日〔日〕までの80日間、群馬県前橋市の中心市街地を舞台に開催する「第一回 前橋国際芸術祭 2026」について、アーティスト・プログラムの全容を発表いたします。

本芸術祭は2016年に前橋市が策定したまちづくりビジョン〈めぶく。〉を起点に、民間主導で進められてきた都市再生のプロセスに呼応しながら、アートを通じて前橋の現在地と未来像を描き出す、2年に一度（ビエンナーレ形式）の国際芸術祭です。記念すべき第一回の開催テーマは「めぶく。Where good things grow.」。現代アートにとどまらず、建築・音楽・詩・演劇・食など、多彩な領域から70組のアーティストを招聘し、さらに地元・前橋のクリエイターと連携する20以上のプログラムを実施いたします。

展示会場は市立現代美術館〈アーツ前橋〉をメインに、建築家の藤本壮介が設計を手掛けた〈白井屋ホテル〉、平田晃久の〈まえばしガレリア〉など、ホテル・ギャラリー・店舗・空きビル等20箇所以上の個性的な施設と、アーケード商店街や公開空地にも作品を設置。約500メートル四方のエリアに集積する現代建築群とアート作品を徒歩で巡る、ウォカブルな芸術体験を創出します。

前橋が「現代建築とアートの聖地」となる未来を目指す、新たな国際芸術祭のはじまりです。是非ご期待ください。

新規発表① 国内外のアーティストによる、前橋の風土と歴史に呼応する作品群

萩原朔太郎の生誕地として知られ、生糸産業で発展し多様な人や文化が行き交った「水と緑と詩のまち」前橋。国内外で活躍するアーティストたちが、この街の日常に宿る記憶や物語、土地の風土や歴史に呼応したプロジェクトを発表します。

※実施内容等につきましては予告なく変更する場合がございます。



川俣正《Tree Hut Project》【東和銀行本店併設「憩いの広場」】

無加工の木材や建築廃材などを用いて、既存の都市空間や自然環境に適応・介入するサイトスペシフィックなインスタレーションで知られるアーティスト川俣正。制作プロセスそのものを作品とする〈ワーク・イン・プログレス〉の代表的な作家であり、世界各地で芸術・建築・公共を問う野外プロジェクトを展開している。街路樹などに設置する《Tree Huts》は、川俣が2008年にニューヨークで初めて制作し、その後も各都市で展開しているアートプロジェクトである。前橋では前橋国際芸術祭のはじまりを記念するシンボルとして、アーツ前橋正面のケヤキに1基を現地制作する他、東和銀行本店併設「憩いの広場」にワークショップで市民が構想した参加型プロジェクトとしての《Tree Huts》を設置する。これらは前橋市中心市街地の再開発とともに成長し、新陳代謝し、変化し続ける長期的なパブリックアート・プロジェクトとして計画されている。



<Photo by Marco Pavan>

アレクサ・クミコ・ハタナカ【アーツ前橋】

日本、ベトナム、韓国など、世界各地の紙づくりをリサーチし、手漉き和紙を素材にテキスタイル・衣服・彫刻などを制作する日系カナダ人アーティスト、アレクサ・クミコ・ハタナカ。第61回ヴェネチア・ビエンナーレ国際美術展に選出され、世界的な注目を集める新鋭が、前橋で滞在制作を行い、その成果をアーツ前橋で発表する。風土が生み出した伝統の技を訪ね、環境危機の時代に必要な智慧として提起する彼女のシリーズに、どんな新作が加わるのだろうか。



マルタン・マルジェラ【アーツ前橋・まえばしギャラリー】

この春、東京の九段ハウス、京都のタカ・イシイと、2つの会場を旅してきたマルタン・マルジェラの展覧会が、再編成で前橋国際芸術祭2026にやってくる。2008年にファッション界を退き、アーティストに転身したマルジェラは、人間の身体や痕跡・時間・不在といった主題を軸に表現活動を継続しており、そのアートワークは日常の中で見過ごされがちな物や状況への鋭い観察から生まれ、平凡なものを非凡なものへと転化させる力を持つ。群馬のプログラムでも、マルジェラにとって重要な「私的な空気感」を反映した、コラージュ、絵画、ドローイング、大型彫刻、アッサンブラージュ、映像作品など多様な作品を展示・紹介する。



蜷川実花 with EiM【ハウゼビル】

アーツ前橋開館10周年記念展「ニューホライズン 歴史から未来へ」（2023）で、廃棄したキャバレーと白井屋ホテルの吹き抜けに、それぞれ前橋という都市固有の衰退と再生を物語るように、草花・蝶・魚など小さな生命のサイクルを光彩色で表した蜷川。本芸術祭でも科学者・アーティストックディレクター宮田裕章、プロダクションデザイナーEnzoらと結成するクリエイティブチーム〈EiM〉として新作を発表する。

■その他の主な参加アーティスト

田所淳、ドットアーキテクト、小暮香帆、木々津鏡、ナイトウカツ、渋谷慶一郎、尾花賢一＋石倉敏明、関口光太郎、レア・エンペリ、マイカ・シルバー、マイケル・シューマツハ、マイク・エーブルソン、ミロコマチコ、吉開菜央、石川直樹、クワクボリョウタ、最果夕七、萩原朔美、サム・フォールズ、佐々木俊、スズエリ、山田紗子、S. Proski、海老原イエ二、山縣良和、白川昌生、田中悠美子

新規発表② 音楽・演劇・ガストロノミー・マーケットなど前橋のまちなかを舞台にした多彩なプログラム

アート・建築・音楽・詩・演劇・食が交差する都市の芸術祭にふさわしく、地域のコミュニティや拠点とも連携し、まちなかの各所で国内外のアーティストやミュージシャン、パフォーマーたちによる多彩なプログラムを開催します。

【音楽】

9/19（土）～9/21（月祝）【ハウゼビル】※要別チケット（後日発売）

《前橋国際芸術祭 2026 オープニングライブ》ジム・オルーク、カール・ストーン、クリストフ・シャルル and more.

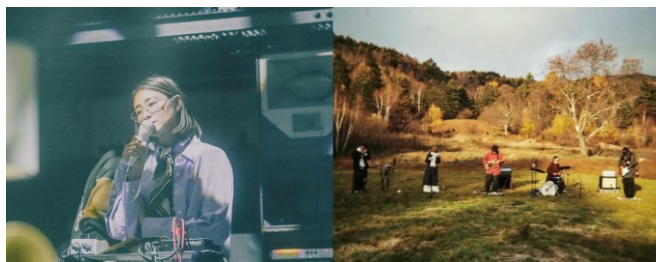


9/19（土）から9/21（月祝）の3日間にわたって開催する前橋国際芸術祭2026オープニングライブ。会場はゴールドのセラミックタイルの威容が目を惹く銀座通りの廃ビル「ハウゼビル」。クリエイティブコーダーの田所淳、アーティストの小野田賢三、「音園/OtoZono」細島マサの共同プロデュースで、ジム・オルーク、カール・ストーン、クリストフ・シャルルら国際的に活躍するミュージシャンと、ニューヨークから特別参加するマイケル・シューマツハ、国内からは田中悠美子、池田謙、鈴木英倫子、マイカ・シルバーらが前橋中心市街地に集結。大規模な再開発工事を控えた空洞化が加速するエリアに、音楽と映像、デジタルと身体が融合する特別な3夜を創造する。1980～90年代、産業衰退後のデトロイトや壁崩壊後のベルリンでは、打ち捨てられた工場や発電所が電子音楽の実験場となった。言語を介さないリズムが、既存の社会システムからの解放と創造的な連帯を生み出していく。

【ワークショップ】

11/ 8（日）【前橋中央通り商店街（予定）】

《LOLOET Workshop Live「本当は言いたかったこと」》和田彩花+群馬大学共同教育学部附属中学校音楽部



アイドルグループ「アンジュルム」で初代リーダーを務めた後、アーティストとして活動しながら美術やフェミズムに関する発信・執筆を行なっている和田彩花。本企画は和田と群馬大学附属中学校の生徒たちが、心のなかに秘めている言葉や、街で見つけた音や道具を集め、楽譜や正解に縛られない即興演奏をつくりあげるワークショップ公演である。生徒たちは和田が所属するバンドLOLOETのサポートのもと、それぞれの音や声の出し方、感じ方、関わり方の違いを受け入れ、その双方向の学びの成果をアーケード商店街の路上ライブで披露する。

【演劇】

10/31（土）11/1（日）【旧安田銀行担保倉庫】※要別チケット（後日発売）

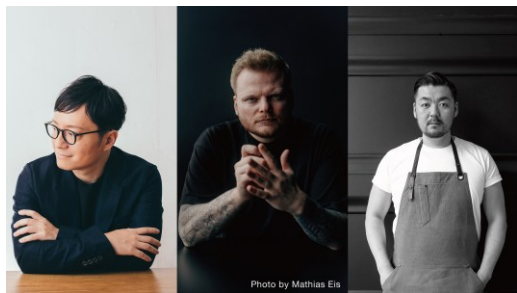
《koe oto note》藤田貴大、原田郁子、青柳いづみ



演劇作家の藤田貴大はカンパニー〈マームとジブシー〉を主宰、全作品の脚本・演出を手がける。北海道伊達市出身の藤田にとって、前橋は母方のルーツで、自身の出生地でもあり、幼少期より毎年祖父母に会いに訪れた街である。2012年、〈マームとジブシー〉は、沖縄戦に動員された少女たちに着想を得て創作した今日マチ子の漫画『cocoon』の舞台化に際し、初めて沖縄に流れる時間と記憶に触れた。以降、沖縄に通いながら、沖縄のみならず様々な土地の戦争・痕跡・記憶をヒアリングしながら作品にしてきた。その中で、藤田と、舞台『cocoon』で主演・サン役を務めた俳優・青柳いづみ、音楽を担当したクラムボンの原田郁子は、本公演と並行してリーディングライブを行ってきた。今秋の前橋国際芸術祭2026で3人は、前橋空襲の戦災遺構・旧安田銀行担保倉庫を舞台に、リーディングライブ『koe oto note』を2日間行う。あの頃の未来である今、〈その先〉を生きる私たちの声・音・言葉をつなげていく。

【ガストロノミー】

《Food as Art ? 》浜田岳文、ラスムス・ムンク、高田裕介【白井屋ホテル 他】※要別チケット（後日発売）



世界128カ国以上を訪れた美食評論家であり、食を文化や芸術の領域として捉えるガストロノミーの探究者として、レストラン業界に大きな影響力を持つ浜田岳文が、前橋国際芸術祭2026で"Food as Art?"を提起するプロジェクトを始動。藤本壮介や永山祐子らスターアーキテクトが手がけた建築や前橋の街を舞台に、「食は現代美術の領域に入り得るか？」という自らの問いを検証する多彩な食体験を、国内外で活躍する気鋭のシェフたちと共同で開発・提供する。

【マーケット】

11/21（土） 22（日） ※11/20（金） 前夜祭【前橋中央通り商店街他】

《MAEBASHI ART MARKET – 持ち帰る芸術祭》Produced by MEET YOUR ART with 風街タやけマルシェ



<Photo by Keisuke Maeda>

「アートと出会う」をコンセプトにエイベックス・クリエイター・エージェンシーが手がけるアートプロジェクト〈MEET YOUR ART〉が、前橋国際芸術祭2026公式アートマーケットをプロデュース。前橋の街なかで毎週開催される〈風街タやけマルシェ〉とのコラボレーションのもと、芸術祭を〈鑑賞する場〉から街なかでアートと出会い・選び・持ち帰ることのできる場へと拡張する試みとして、アーケード商店街にアート・食・ファッション・クラフトが交差するマーケットを出現させる。若手作家によるドローイング・マーケットや、群馬のカルチャーを再解釈したセレクトショップなど、この場所・この2日間にしか生まれない〈表現としてのマーケット〉が立ち上がる。

【マーケット】

12/5（土） 6（日）

《Funclusion Hall》Produced by HERALBONY 【ミヤケン元気21にぎわいホール】



<Photo by 橋本美花>

「異彩を、放て。」をミッションに掲げるアートライフスタイルブランド〈ヘラルボニー〉が、芸術祭期間中の「国際障害者週間」（12/3～12/9）の週末に、〈FUN（楽しさ）〉と〈Inclusion（包摂）〉を融合させた〈FUNclusion（ファンクレーション）〉をコンセプトに体験型ワークショップ・ガーデンを創出。多彩なクリエイターによる、五感を使う多彩な〈FUNclusion〉体験により、一人ひとりのなかにある〈あたりまえ〉を柔らかくほぐしていく。会場はアーツ前橋に隣接するミヤケン元気21にぎわいホール。

【ライトアップ】

《空気に根をおろす》白井屋ホテルアートイルミネーション2026 + ミロコマチコ at SHIROIYA 【白井屋ホテル】



白井屋ホテルが毎年11月下旬から1月にかけて開催し、馬場川通りの冬の風物詩として定着している「アートイルミネーション」は、藤本壮介が設計した同ホテルのグリーンタワー（緑の丘）を、毎年異なるアーティストが光の演出で幻想的に彩り、地域の人々と宿泊客を楽しませているライトアップ・プロジェクトである。今年は前橋国際芸術祭2026とコラボレーションし、画家で絵本作家のミロコマチコを奄美大島から招聘。芸術祭の開催テーマ〈めぶく。〉にちなみ、画家が暮らす南の島から飛来した〈空想の種〉が、グリーンタワーに根をおろし次々と芽吹いていく、生命力あふれる物語世界を創出する。

【アートプロジェクト】

フリッツ・アートセンター《ほどく・つくろう・あみなおす》【寺町藝術センター】



敷島公園で40年間にわたって良書とアートを紹介してきた「フリッツ・アートセンター」の小見純一が、三河町の新陳代謝のなかで静かに消えようとしていた2棟の空きビルを、芸術家、旅人、そして地域の人々が日常的に交差する劇場やアートホテルへと再生させるプロジェクト。芸術祭の期間中を通して、演劇上演、アート展示、映画祭、音楽ライブなど、「寺藝」に集まるコミュニティによる多彩な表現が即興的に生み出されていく。

■その他の主なプログラム(アートプロジェクト、公演、イベント、ワークショップ等)

「すべての人がめぶく」映画祭、移動式公開編集会議アルケノード、前橋国際芸術祭2026オープンダイアログ、マエバシタクシー、めぶく。カンファレンス、吉開菜央特集上映、NEW TRADITIONAL、「Noie」by BnA、ネオ・ネオ・ダダマMAEBASHI、クワクボリウタ+前橋工科大学阿部研究室、SITE PORTAL、STREET FURNITURE EXHIBITION 2026、sub low、駅家の木馬祭り

チケット販売、オフィシャルツアー、地域での取り組みについて

■チケットについて

5月26日正午より「前橋国際芸術祭2026」パスポートチケットの販売を開始します。

有料会場：アーツ前橋、まえばしギャラリー、ハウゼビル、寺町藝術センター、広瀬川美術館、ya-gins、裏ノ間

(有料会場は今後追加の可能性がございます。公式HPにて最新情報をご確認ください。)

【種類と価格】

パスポートチケット 一般 3,000円(税込) / 学生 2,000円(税込) / 一般(前橋市民) 3,000円(税込)

(パスポートチケット「一般(前橋市民)」について)

前橋市民の方でめぶくPayをご利用の方には、後日めぶくポイントで1000ptを還元いたします(ArtStickerでのご購入または当日券のみ)。ArtStickerでご購入の方には詳細をチケット購入時に登録されたメールアドレス宛に後日ご案内いたします。

【購入】

●オンライン購入 販売期間：5月26日 12:00~12月20日 17:00

ArtSticker、JRE MALLチケットにて購入：オフィシャルWEBサイトよりリンク <https://maebashi-biennale.com/>



●当日券 アーツ前橋 総合カウンターにて販売 販売期間：9月19日~12月20日 (休館日を除く)

■オフィシャルツアーについて

前橋国際芸術祭では白井屋ホテル宿泊のオフィシャルツアーを企画、販売予定です。詳細は後日発表致します。

■「ローカルサポーター制度」について

前橋国際芸術祭では前橋に根ざし、前橋の未来を共に考えていただける企業や市民にご参画いただくための「ローカルサポーター制度」を導入致します。一律10万円(税込)の参加費で芸術祭のパスポートチケットの進呈と広報連携をはかる仕組みです。地元前橋の仲間の皆さまに、是非ご参加いただければと思います。

お問い合わせ先：前橋国際芸術祭2026実行委員会事務局 **E-mail: info@machinaka.agency**

【ふるさと納税 寄附企業】

株式会社 **メルコグループ**

株式会社メルコグループ

一三三

常石グループ株式会社

SMBC
三井住友銀行
SUMITOMO MITSUBI BANKING CORPORATION

株式会社三井住友銀行

ほほ日

株式会社ほほ日

FIRST
CORPORATION

ファーストコーポレーション株式会社

Daiwa House Group

大和リース株式会社

space

株式会社スペース

日本通信

日本通信株式会社

JAOS
Experience a New Adventure.

株式会社ジャオス

Ishikawa
holdings
Ishikawa Holdings Ltd.

イシカワホールディングス株式会社

みらい

みらいコンサルティンググループ

株式会社みらいアウトソーシングHALZ

**A
&B**

Arts & Brands

株式会社アーツ・アンド・ブランド

<GOLD>

水と生きる
SUNTORY

サントリー株式会社

JINS

株式会社 ジンズホールディングス

<BRONZE>

株式会社みずほ銀行 株式会社三菱UFJ銀行

<SUPPORTER>

株式会社トロンマネジメント クレー株式会社 東亜道路工業株式会社 東日本旅客鉄道株式会社

<メディアパートナー>

BRUTUS

J-WAVE 81.3FM

上毛新聞社

前橋発、新しい風
me bu ku

<チケットパートナー>

ArtSticker

JRE MALL
チケット

<アコモデーションパートナー>

白井屋ホテル

まえばしギャラリー

<オフィシャルギャラリー>

Art Office Shiobara MAKI Gallery rin art association Taka Ishii Gallery TOMIO KOYAMA GALLERY

「第一回 前橋国際芸術祭 2026」開催概要

【名 称】第一回 前橋国際芸術祭 2026

【テーマ】「めぶく。Where good things grow.」

【会 期】2026年9月19日（土）～12月20日（日）

【WEBサイト】<https://maebashi-biennale.com/>

【会場】アーツ前橋、まえばしガレリア、白井屋ホテル、前橋市中心市街地エリア

【チケット】

パスポートチケット 一般 3,000円（税込） / 学生 2,000円（税込） / 一般（前橋市民） 3,000円（税込）

（パスポートチケット「一般（前橋市民）」について）

前橋市民の方でめぶくPayをご利用の方には、後日めぶくポイントで1000ptを還元いたします（ArtStickerでのご購入または当日券のみ）。ArtStickerでご購入の方には詳細をチケット購入時に登録されたメールアドレス宛に後日ご案内いたします。

●オンライン購入 販売期間：5月26日 12:00～12月20日 17:00

ArtSticker、JRE MALLチケットにて購入：オフィシャルWEBサイトよりリンク <https://maebashi-biennale.com/>

●当日券 アーツ前橋 総合カウンターにて販売 販売期間：9月19日～12月20日（休館日を除く）

【運営組織】

主 催：前橋国際芸術祭2026実行委員会

特別共催：株式会社メルコグループ

共 催：前橋市

顧 問：山本一太（群馬県知事）

実行委員長/総合プロデューサー：田中仁（株式会社ジズホールディングス代表取締役会長CEO/一般財団法人田中仁財団代表理事）
プログラムディレクター：宮本武典（東京藝術大学准教授/アーツ前橋チーフキュレーター）

アドバイザー：南條史生（前橋市文化芸術戦略顧問）、萩原朔美（前橋文学館特別館長/前橋市文化芸術活動顧問）、松田文登（株式会社ヘラルボニー代表取締役 Co-CEO）、牧寛之（株式会社バッファロー代表取締役社長）

アンバサダー：和田彩花

【ふるさと納税寄付企業】

株式会社メルコグループ、常石グループ株式会社、株式会社三井住友銀行、株式会社ほぼ日、ファーストコーポレーション株式会社、大和リース株式会社、株式会社スペース、日本通信株式会社、株式会社ジャオス、イシカワホールディングス株式会社、株式会社みらいアウトソーシングHALZ、株式会社アーツ・アンド・ブランチ

【協賛企業】

<GOLD> サントリー株式会社、株式会社ジズホールディングス

<BRONZE> 株式会社みずほ銀行、株式会社三菱UFJ銀行

<SUPPORTER> 株式会社トロンマネジメント、クレー株式会社、東亜道路工業株式会社、東日本旅客鉄道株式会社

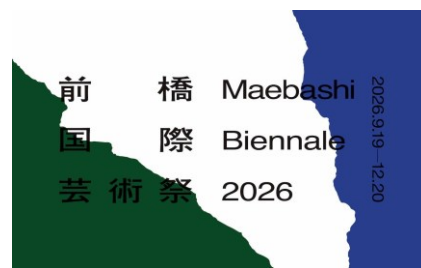
【オフィシャルパートナー】

<メディアパートナー> BRUTUS、J-WAVE、上毛新聞、前橋新聞mebuku

<チケティングパートナー> ArtSticker、JRE MALLチケット

<アコモデーションパートナー> 白井屋ホテル、まえばしガレリア

<オフィシャルギャラリー> Art Office Shiobara、MAKI Gallery、rin art association、Taka Ishii Gallery、TOMIO KOYAMA GALLERY



【掲載・ご取材に関するお問い合わせ】オフィシャル画像は[こちら](#)よりダウンロードくださいませ。

前橋国際芸術祭2026広報事務局 maebashi_mebuku_pr@av.avex.co.jp 坂本

エイベックス・クリエイター・エージェンシー株式会社 村田